

第三次・担い手3法 —みんなで考える持続可能な建設業—

The third set of three laws for workers
—sustainable construction industry for everyone—

特集担当主査：大前慶恵

特集担当副査：阿部聡

特集企画担当：堀田昌英、井上亮、大蔵崇、工藤正智、萩原健介、本合弘樹、増田貴之、丸山有弥、茂木哲一

建設業の担い手 不足は当たり前？

近年、どの業界でも耳にする「担い手不足」。これは建設業にとっても喫緊の課題として度々取り上げられる。

本来、建設業というのは安心・安全な国民生活

や社会経済を支える、極めて重要な役割を担っている職業だ。それにも関わらず建設業の就業人口が減少の一途をたどっているのは、3Kのイメージが定着している建設業が若手世代にとって魅力的ではなくなってきていることが大きな要因である。

持続可能な建設業を目指して —技能者の視点から

政府はこうした状況の中で、公共工事の品質確保と担い手の育成・確保を目的として、2014年に品確法・建設業法・入契法を一体改正し、「担い手3法」を制定した。その後、相次ぐ災害に対する対応力の強化や働き方改革の推進、ICT技術を利用した生産性の向上など、時代の流

ABSTRACT

The construction industry is currently facing a shortage of workers. The negative image of the construction industry has taken hold, and this is probably the main reason for the shortage of workers. In order to improve the environment for workers, “the three laws for leading workers” was revised in 2024, but how much improvement can be expected?

In this special issue, we interview people who are deeply involved in the issue of the shortage of bearers, asking them about the current state of the working environment and their efforts to improve it. We hope that the real voices of those on the frontlines will encourage readers to rethink the “sustainable construction industry.”

れとともに生じる新たな課題や喫緊の課題を解決すべく、2019年・2024年に改正が行われている。

担い手3法の内容は多岐にわたるが、本特集では「持続可能な建設業の実現」に着目したい。担い手3法は、全ての建設労働者に対してより良い労働環境と処遇を提供することで、建設業全体の持続可能性を高めることを目指している。特に2024年の改正（第三次・担い手3法）では、賃金引き上げや資材高騰に伴う労務費へのしわ寄せ防止、労働時間の適正化など労働者の処遇改善と、従来の取引慣行・ルールからの大きな転換を図っている。土木学会誌でも、働き方改革や人材育成、教育方法など、建設業の将来・担い手確保

品確法 (2005年制定) 公共工事の品質確保に関する基本理念、国等の責務、基本方針の策定等その担い手の中長期的な育成及び確保の促進その他の公共工事の品質確保の促進に関する基本的事項を定めることにより、現在及び将来の公共工事の品質確保の促進を図り、もって国民の福祉の向上及び国民経済の健全な発展に寄与することが目的	建設業法 (1949年制定) 建設業を営む者の資質の向上、建設工事の請負契約の適正化等を図ることによって、建設工事の適正な施工を確保し、発注者を保護するとともに、建設業の健全な発達を促進し、公共の福祉の増進に寄与することが目的	入契法 (2000年制定) 入札及び契約について、その適正化の基本となるべき事項を定めるとともに、情報の公表、不正行為等に対する措置、適正な金額での契約の締結等のための措置及び施工体制の適正化の措置を講じ、併せて適正化指針の策定等の制度を整備すること等により、公共工事に対する国民の信頼の確保とこれを請け負う建設業の健全な発達を図ることが目的
---	---	---

公共工事の品質確保とその担い手の中長期的な育成・確保を目的に、品確法と建設業法・入契法を一体として改正

担い手3法 (2014年改正)

- 適正な予定価格の設定、歩切りの根絶
- 価格ダンピング対策の強化
- 中長期的な担い手の確保

新たな課題に対応し、5年間の成果をさらに充実する
新・担い手3法改正を実施

- 《新たな課題》
- ① 相次ぐ災害を受け地域の「守り手」としての建設業への期待
 - ② 働き方改革促進による建設業の長時間労働の是正
 - ③ i-Constructionの推進等による生産性の向上

新・担い手3法 (2019年改正)

働き方改革の推進

- 適正な工期設定（休日、準備期間を考慮）
- 施工時期の平準化（債務負担行為や繰越明許費の活用）
- 社会保険加入を許可要件化

生産性向上

- 情報通信技術等の活用による生産性向上
- 技術者に関する規制の合理化

持続可能な事業環境の確保

- 緊急性に応じた適正な入札・契約方式の選択
- 災害時の見積りも徴収の活用

インフラ整備の担い手・地域の守り手である建設業等がその役割を果たし続けるよう、喫緊の課題に取り組むべく担い手3法を改正

- 《喫緊の課題》
- ① 担い手確保のための働き方改革・処遇改善
 - ② 地域建設業等の維持に向けた環境整備
 - ③ 生産性向上
 - ④ 公共工事の発注体制の強化

第三次・担い手3法 (2024年改正)

担い手確保

- 賃金の支払い実態把握
- 休日確保の促進
- 学校との連携・広報

生産性向上

- ICT技術の活用
- 現場管理の効率化
- 技術開発の推進

持続可能な事業環境の確保

- 適切な入札条件での発注
- 災害対応力の強化
- 広域的な維持管理

担い手3法の目的：持続可能な建設業の実現と、そのために必要な担い手の確保

図1 担い手3法の変遷

（注1）技術者と技能者のすみ分けについては非常に難しく、特に近年ではその境があいまいであるが、本特集では『施工の具体的な作業に従事する』方を技能者としている。

担い手確保問題は一朝一夕で解決する問題ではないが、本特集が持続可能な建設業について考える一助になれば幸いである。

トになるのではないだろうか。

三つ目は、「働きやすい環境を作るために行われている取り組み」を紹介した。外国人労働者や女性技能者が働き続けられる環境づくりや流動的な人材活用、技能者のキャリアパス、クレーンと働きやすさの関係など、前向きな取り組みが紹介されており、これからの担い手確保のヒントになるのではないだろうか。

三つ目は、「働きやすい環境を作るために行われている取り組み」を紹介した。外国人労働者や女性技能者が働き続けられる環境づくりや流動的な人材活用、技能者のキャリアパス、クレーンと働きやすさの関係など、前向きな取り組みが紹介されており、これからの担い手確保のヒントになるのではないだろうか。

二つ目は、「建設業界に求められること」について、実際に現場で働いている方や技能教育と密接に関わっている方は今の建設業界をどう思っているのか、これからの建設業に何を求めているのか、リアルな声を感じながら読んでいただきたい。

二つ目は、「建設業界に求められること」について、実際に現場で働いている方や技能教育と密接に関わっている方は今の建設業界をどう思っているのか、これからの建設業に何を求めているのか、リアルな声を感じながら読んでいただきたい。

に着目した特集が定期的に組まれているが、技術者に関する記事が多く、技能者に関する記事は少ない^{（注）}。そこで、本特集では「技能者」にフォーカスしたいと思う。

第三次・担い手3法による賃金引き上げや休日確保など処遇・労働環境の改善はもちろん必要であるが、建設業という仕事に「やりがい」を

感じられることが働き続けるために大事である。建設業に関わる全ての人たちが生き生きと働くためにはどうしたら良いのか？ 建設産業の構造はこのままで良いのか。

本特集では、持続可能な建設業について、さまざまな視点・立場から考えた記事を集め、建設業の新しい姿、あるべき姿を改めて考えるきっかけとなることを目指した。

特集の構成

本特集は、技能者を取り巻く状況やこれからの未来のための取り組みを知るため、以下の三つのテーマで構成した。

一つ目は、「技能者不足の現状や担